令和５年度　諫早市立西諫早中学校学校経営方針

令和５年４月１日

校長　平間恵一

■　校　　訓
「躍動」　考え、明るく活力のある生徒　・・・・・協働して
「責任」　自立し他者に依存しない生徒　・・・・・主体的に
「勤勉」　心身共に健康で我慢強く学ぶ生徒　・・・・・自ら学び

■　教育目標　「　自ら学び、協働して、主体的に取り組む生徒を育てる　」

スローガン　～未来を主体的に創造（３つの働ー協働・実働・主導）しよう　～
（３つの化ー新化・進化・深化）

実践指針：「（心に）届く、響く、残る、そして繋ぐ」（ＰＤＣＡ=協働）の一連の取組を通して

■　「届く、響く、残る、そして繋ぐ」実践のための５つの合い（愛）
＝学びの中でのあきらめない生徒の姿

「　学び合い、　磨き合い、　認め合い、　支え合い、　励まし合い　」（全教育課程の中で）

【生　徒　像】

１　考え、明るく活力のある生徒
２　自立し他者に依存しない生徒
３　心身共に健康で我慢強く学ぶ生徒

【学　校　像】

１　生徒が喜んで登校したいと思う学校
２　明るい挨拶が響き合う生き生きとした学校
３　家庭や地域に信頼され、貢献する学校

【教　師　像】

１　自ら学び、協働して、主体的に取り組む教師集団
２　未来を主体的に創造（協働・実働・主導）する教師
３　「（心に）届く、響く、残る、そして繋ぐ」の実践を通して、五つの合いを推進する教師

【教育目標具現化への思い】

今年度の教育目標を、昨年度に引き続き、「自ら学び、協働して、主体的に取り組む生徒を育てる」とした。これから新しい時代の担い手となる生徒たちが、“未来への希望を抱きながら、自ら学びに向かい、そして皆と協働して問題や課題に取り組む中で、自他を認め合い、互いの成長を実感しながら、未来に向かって主体的に一歩一歩努力を積み重ねて欲しい”という願いを込めて教育目標を設定した。また、その実現のためのスローガンとして「未来を主体的に創造しよう」と掲げ、その創造するために必要な３つの働（協働の姿勢、実働の姿勢、主導（働）の姿勢）・３つの化（新化・進化・深化）を大切にしていきたい。重ねて、その実践指針として「（心に）届く、響く、残る、そして繋ぐ」をすべての教育活動の中で反映していきたい。やはり教育は人である。人と人が繋がる事で、その教育的効果は無限に広がる。その繋がる中で、「思いを心に届け、心に響かせ、互いの心に残る、そして、その繋がり」を大切に継続することで、大きな学びや歩みを一歩一歩実現していける。

これから、我々が生きていく未来社会は、必要な「持続可能な社会づくり」とともに、急激な変革や変動がますます進んでいくことが予想される。そして今は、子どもたちの課題として、コミュニケーションの不足（偏り）やスマホ・ゲーム等のメディアへの依存、いじめ・不登校等の今日的な課題への対応が問われている時である。また、これまで、我々・生徒の生活や行動に大きな影響を及ぼしていた新型コロナウイルス感染症は、５類への移項が実現する中で、学校ではこれまでのコロナ禍からの脱却を図っていかなければならない。

そのため、これから求められる事として、コロナ禍でなかった３年前の学校のスタンダードを振り返り、そこを一つの基本・標準とする中でも、決して、３年前に立ち戻るという捉え方ではなく、コロナ禍を経て、新たな西中のスタンダードを確立していく、創造していくという方針でありたい。
これからは、そのための判断や対応が求められる上に、我々の組織力や対応力が試されるといっても過言ではない。だからこそ、これからも生徒たちが自他の命や学びを守るための行動や生活を大切し、日々の繰り返しの行動一つ一つにも意義や価値付けを図ると共に、我々とともにそれを粛々と実行に移しながら、その中で、「楽しく、豊かな学び」や「成長が実感できる活動」等の「西中だからできる。西中しかできない」一つ一つの実現目指して、生徒と教職員が力を合わせて一歩一歩前へ進んでいきたい。進んでいかなければならないと考える。

また、我々がこの歩みを通して、これからの生徒の未来のために、「育ませなければならない力」をまとめると①「問題や課題と向き合い、それに挑む（解決する）力」、そのための②協働して取り組む力（対人との協調性・コミュニケーション力・やり取りできる力）③主体的に取り組む力（自主自律・主体性）、この３つになると思われる。この３つから、我々が目標とする生徒の姿を一言で表現すると、「諦めない生徒」を育てることと受け止める。

つまり、学校生活（我々の授業や指導、繋がり合い等）の中で「諦めない力」を育んでいかなければならないということである。諦めない力の基盤は、自己理解であり、自己肯定・自己容認である。そして、その諦めない力の種は、基礎学力であり、他者と協働する力であり、問題に自ら（主体的に）向かいそれを解決していく経験である。そこで感得する達成感であり、自己肯定感である。これらすべてが生きる力の種（あるいは成長の種）や礎になっていく。

このような状況において、我々は、自らの授業に責任もって、この方向性や意図を反映させるとともに、授業の改善や充実に生かせる評価の実現を目指さなければならない。そして、我々は、その一つ一つを負担感や重圧と受け取るのではなく、これを学校運営に追い風と捉え、授業改善やＧＩＧＡスクール構想への対応、働き方改革等を重ね合わせ、我々の共通認識のもと、生徒とともに楽しく実践を一歩一歩前に進めていきましょう。我々の実践の成果が生徒の姿・学校の姿としてみんなが実感できる学校運営を目指していきます。

以上のことを踏まえ、令和５年度は、我々教職員で「ワンチーム」として力を合わせて、生徒のために協働して一歩一歩前に進んでいきましょう。「人は、人を浴びて人となる」⇒「環境が人をつくる」⇒「学校では、生徒にとって一番の環境はわれわれ教職員である」のだから。

【重点目標】

１　生徒の**ありのまま**を受け入れ、個の状況・理解度に応じた教育を大切に実践する。
（特別支援教育の充実）

２　学習環境を整え、豊かな心を育むと共に、**未来を支える力の育成**を図る。（学力保障）

３　多様性と規範・規律を尊重する教育活動を充実させ、**５つの合い（愛）**を大切にする心・姿勢を育てる。

４　家庭や地域と連携・協働し、学びの充実を図るとともに、**地域とともにある学校**を推進する。

【努力目標】

１　教科指導の充実

〇学習指導要領に則った授業を進め、その充実を図りながら、より学習の楽しさや互いの成長を感得させる。

〇学習言語の習得状況を意識した授業を行い、抽象的思考を支援し、より見える化を図りながら、学習のつまずきを防ぐ。

（すべての生徒のための特別支援教育の推進・具体的な手立ての試行・実践）

○多様な言語表現に触れさせ、活用できる語彙を増やし、思考力・表現力を高める指導を行う。
聞く力（相手の思いを汲み取る力）・話す力（相手に思いを伝える力）の推進
＝コミュニケーション力
○家庭と連携・協働し、家庭学習との繋がり（家庭学習の習慣化、適切な課題設定、タブレットの活用、評価に繋げる資料の授受等）を通して、基礎学力の定着や生徒の成長の正確な見取り（より適切な評価の実践）に努める（ＧＩＧＡ構想の具現化）
○「主体的・対話的で深い学び」の授業及び授業改善につながる「評価」について研究・実践を深める。＊生徒指導の３機能「自己決定（届く）・共感的人間関係（響く）・自己肯定感（残る）」

２　道徳教育の充実

○特別の教科道徳の実施に向けた指導、評価についてさらに研究を深める。
○日常生活の振り返りの中で、人権意識、規範意識を高め、道徳的実践力を育てる。
○道徳授業や人権平和学習等を通して、多様な心や思いに触れ、互いを理解し、尊重する心と態度を育てる。

３　特別活動の充実

○学年、学級、生徒会活動等において、思考・判断・決定を意識させ、主体性や協働する姿勢を大切に、自治的な活動を充実させる。
○教科指導を含め、図書室の積極的な活用に努め、読書の質と量を高め、読書教育を充実させる。
○自治的・主体的な活動や授業において、「時」・「場」・「人」をみて行動（判断）する（できる）ことを意識する（させる）。
○自己理解や生き方に繋がる「キャリアパスポート」の充実を推進する。

４　総合的な学習の時間の充実

○基礎的汎用的能力の育成を図るとともに、将来的には、地域の職業や人と連携し、その生き方や働き方、課題等を学び、その中での課題解決やその活性化に向けた活動や実践通して、地域（ふるさと）を担う実践力を育む。そのための学習プランを推進する。
＊各教科や総合的な学習時間、行事等の中で、実践力の育成を意識した取組を重ねていく。

５　生徒指導の充実　（生徒理解の場を生む・育む。　生徒理解は進行形）

○生徒理解を深め、個々の生徒の良さを見つけ伸ばす。加点法的な生徒指導を行う。
○生徒の状況の迅速で正確な把握・情報共有に努め、自発的な成長に向けた共通実践を行う。
○生徒指導を組織体制として機能させるために、「報告・連絡・相談」と「訪問・連携・早期」を心がけ、学校全体で組織として対応する。

６　特別支援教育の充実　（すべての生徒のために＝５つの合い）

○特別支援教育の視点で全生徒への支援・配慮事項を意識・共有する。「ありのまま」がスタート。
○特に配慮を要する生徒について、関係機関との連携を図りながら、個に応じたより効果的な指導に努める。（個別の支援計画・個別の指導計画の充実を図る。）

７　家庭・地域との連携強化

○保護者、地域との情報共有や連携・協働に努め、保護者と共にある信頼される職員集団をめざす。
○地域とともにある学校として、地域や人との繋がりや協働をさらに推進していく
○PTA・地域の行事へ計画的かつ協働的に参加する。　＝地域の中にある学校づくり